

は し が き

平成9年3月、長年の懸案であった附属図書館の増築が完成し、「ヘルン文庫」も増築された5階へ移転した。昭和10年、旧制富山高等学校図書館（富山市蓮町）に初代の文庫が設けられて以来四度目の移転である。炭酸ガス消火設備を持った「ヘルン文庫」のほかに、八雲の著書や伝記書、研究文献、大学の研究紀要の抜き刷り、新聞記事などの関係文献を収蔵する「ヘルン閲覧室」、八雲及び文庫を紹介する「展示コーナ」などを備え、八雲研究者に開放された、グレードアップした「ヘルン文庫」となった。これで八雲もようやく安住の地を得たことであろう。

さて、大正13年に「ヘルン文庫」が設けられて以来、ハーンの著書や研究書、伝記、雑誌、新聞の抜き刷り・切り抜きなどの八雲に関する文献を収集してきたが、昭和34年にそれらをまとめた「ヘルン関係文献解説付目録」が当時の平岡館長により編纂された。爾来約40年の間に収集された文献は3倍に達し、八雲研究者からは目録の改訂を求められて来た。

平成7年に目録の改訂が計画され、それと同時に「文献」を本学目録データベースに入力し、また図書館ホームページWebでインターネットにより公開する、の三本だての計画であった。

現在は図書館ホームページより「OPAC」検索が出来るほか、八雲の縮刷本の画像を見ることが出来る。Webによる検索もできるようになった。しかし、直接ページをめくって調べる事の出来る冊子体目録も、この種の文庫にとって必要不可欠である。

なお、この目録は旧目録の単なる改訂版でない。旧目録の不備を補った他、八雲の著書・全集には内容細目が付けられ、『書名・文献索引』『著者・執筆者索引』等でも多くの関連資料の検索が出来るように、また、その他さまざまな面で格段に研究者への便が工夫されている。編纂作業の労は、当館の秋元國男図書館専門員によるものであり、記して厚く感謝申し上げる次第である。

今、全国のあちこちで八雲の記念館や資料館が建ち、イベントが行われていることは大変喜ばしいことである。八雲研究者のすそ野が広がれば、わが図書館の「ヘルン文庫」「ヘルン関係文献」は益々重要となって来る。かつて「ヘルン文庫」の生みの親の旧制富山高等学校の南日恒太郎初代校長の目指された、「ヘルン研究者を全国から集める」願いは、今や世界から「ヘルン文庫」にアクセスされ、八雲研究の情報発進基地となって実現している。

(ii)

しかし、関係文献の多くは八雲研究者からのご恵贈によって成っている。この目録に欠けている文献や新しく発表された文献があれば是非ご恵贈をたまわり、八雲研究のデータベースとして育ててほしいものである。

終わりに八雲関係の文献は年々増加しており、この目録がつねにup-to-dateなものであるように、次に続く館員が引き継いでくれれば幸いである。

1998（平成10年）年 2月 1日

富山大学附属図書館長 瀧 澤 弘